

小学校中学年の部 金賞

はん長のぼくができること

高久小学校 4年 馬上 翔

ぼくは、小学四年生だけど登校はんのはん長をしている。ぼくのはんは、二年生が四人と四年生が二人しかいないからだ。

初めてはん長として先頭で歩いたとき、すごくきんちょうしたのをおぼえている。前から大きなトラックが来たときは、むねがドキドキした。今まで後ろからついて行っていたときは、平気だったのと思った。そのとき、ぼくは、今までのはん長さんが、ぼくたちを守ってくれていたことに気がついた。はん長さんは、いつも間をあけないでついてきているか気にしてくれたり、後ろから車がこないか、かくにんしてくれていたのを思い出した。

「そうか、次は、ぼくがこれを受けついでやらなくてはいけないんだ。」

と思った。

他の登校はんより、ぼくたちのはんは、人数が少ない。たくさんいるはんのはん長は、たいへんそうだなと思う。でも、人数が少なくても、はん長の役目は同じだ。はた当番のお母さんが道路をわたらせてくれた後は、学校までぼくたちだけになる。そこから学校までは、前にも後ろにも目を配らなくてはいけない。だから、ぶじに学校に着いたときは、とても安心した。

ぼくが、はん長として歩くことに少しなれてきたころ、テレビでこんなニュースを見た。下校していた小学生の列に車がぶつかってきたのだ。しかも、その人は、けがをした子どもたちを病院につれて行かないで、その場からいなくなってしまった。ぼくは、「どうして、すぐに子どもたちを病院につれて行ってあげないんだろう。ひどい。」と思った。その後、運転をしていた人が、お酒を飲んでいて、その場からにげたということが分かった。ぼくは、なみだが出そうになるくらい頭にきた。ぼくの両親は、子どもが歩いている近くを車で通るときは、ゆっくり気をつけながら運転している。だから、他の人もそうだと思っていた。でも、その人は、子どもがいてもスピードを出していたし、すごく悪いのは、お酒を飲んで運転したことだ。たくさん交通ルールをやぶっている。

ぼくたちは、小学校の交通教室で何度も交通ルールを学んでいる。ぼくたちも交通ルールを守るから、大人もちゃんとルールを守ってほしい。少しくらい守らなくてもいいなんて思っているから、事が起きると思う。子どもも大人もルールを守って、交通事故が起らない国になったら悲しむ人がへると思う。

ぼくは、はん長として、これからも交通ルールを守って、はんのみんなの命を守っていきたい。ぼくができることは、まだ小さなことかもしれない。でも、一人一人がルールを守って、相手を思いやることができれば、悲しいニュースを見るのがなくなるはずだ。交通事故が起らない平和な世の中になることを、ぼくは、ねがっている。